

学校名	唐津市立大志小学校	
1 前年度 評価結果の概要		

達成度（評価）  
A：十分達成できている  
B：おおむね達成できている  
C：やや不十分である  
D：不十分である

2 学校教育目標	保護者や地域と共に創るひとりひとりの笑顔が輝く」大志小 ～ふるさとを愛し、自ら学び、心豊かに、たくましく生き抜く児童の育成～ 『た』くましい体 『い』たわりの心 『し』っかり勉強	
----------	---	--

3 本年度の重点目標	①学力向上 「大志の学びスタイル」にそつた授業で主体的・対話的で深い学びを創る	②充実した生活 取組を活性化し、自己肯定感を育む集団作りや体力向上のための運動習慣作りを充実させる。	③地域連携 地域人材を活用し、人や地域の良さを体感しかかわる力や豊かな心を育む
------------	---	--	---

#### 4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目

評価項目	重点取組 内容	成果指標 (数量目標)	具体的な取組	最終評価 実施結果		評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
				達成度 (評価)	実施結果			
●学力の向上	○児童の活用力や記述力を高める手立ての工夫	○学力調査等での活用問題や記述問題への解答率85%以上。	・算数科の活用問題や記述問題を指導する取組(「いたしーチャレンジ」)を設定する。	B	・相互授業参観・授業研究会を通して授業改善を進めた結果、教職員の書く活動への指導に対する意識調査では肯定的回答が90%であった。それにより児童の「授業中自分の考えをかくことができている」に肯定的回答が86%から93%に向上していた。個々の考え方をさらに充実させ、活用力や記述力を向上させていくために、次年度は話し合い活動に重点を置き、さらに研究を深めていく必要がある。 ・「スキルタイム」は基礎基本の定着や意識の向上に効果が見られるので、次年度も継続して取り組んでいく。	B	・授業を参観して児童が落ちついて学習に取り組んでいる様子が分かった。話す人をしっかりと見て聞く、指名後の返事など、学習規律が身についている。授業内容も保護者との共同作業や全員の発表など工夫されている。学習のめあての提示が黒板にあり、学んだことの振り返りを児童が自分の言葉で発表することもよい取組みだと思う。児童の基礎基本の力をつけるためのスキルタイムも大事な取組みであり、継続していただきたい。	学力向上 CO まなび部
	●児童生徒が、自他の命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他を尊重することに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童80%以上。	・児童会の取組を核にした人権週間や道德教育実践及び振り返りの実施。 ・道徳教育の授業づくりに関する校内研修等の実施(夏季休業中)。 ・自己肯定感を高める命の授業等の実施。	A	・人権週間では、各学級で実態を踏まえ、人権を守る取組みを考え実行する期間を設けた。その後の代表委員会では、各学級がどのような取組みを行った、どのような結果になったのか発表し、共有することができた。人権集会では児童委員が友達関係についての劇を披露し、各学級の人権宣言を発表した。その結果、児童は日々の行動や言動を振り返り互いを大切にするよりよい行動を意識するようになった。 ・人権擁護委員会の方から命について学ぶ場を設けた。	A	・地域の人権委員を活用した授業や人権週間、児童委員会による人権集会などは、児童に改めて人権について考えさせるよい取組みだと思う。 ・児童から進んで挨拶してくれるのはとても嬉しい。地域での挨拶運動のもっと積極的にしていく必要性を感じた。登校時等の挨拶と共に気になる子の見守りもしていただきたい。	道徳教育推進教員 人権・同和教育担当 こころ部
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的対応ができると回答した教員が80%以上。 ○不登校対応について組織的対応ができると回答した教員が80%以上。	・「よいこアンケート(毎月)」及び「Q-U」アンケートへの取組(年2回)。 ・いじめ対応及び「Q-U」アンケートの結果分析の研修(年2回)の実施。	B	・2回目のQ-Uアンケートについては、学年で学級や気になる児童の状況を確認し、1回目のアンケート結果と比較して支援のあり方を考えることで、3学期期の支援に生かすことができた。 ・いじめに関するアンケートは、年間計3回を行い、児童の実態を把握することができる。前回の評価に引き続き、事業には担任と同学年担任、生徒指導担当職員等と複数で聞き取りを行い、管理職に報告・連携して早期対応に努めた。保護者連絡をして家庭と学校で連携して児童の見守りを継続している。	B	・学校はいじめ防止や早期発見・早期対応に十分努めていると思う。学校はいじめと認知した事業を市教育委員会に全て報告していること、事業への対応と保護者への説明、その後の経過まで資料として残していることがよい。そして、その取組みを継続していただきたい。	こころ部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童が80%以上。	・地域人材を活用し、地域の良さや職業に関する講話を設定する。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・「働く人プロジェクト」では、昨年度より多い34企業の方に来ていただいた。5・6年児童は自分が興味のある企業をワークショップ形式で回って仕事のやりがい等の話を聞き、質問することでより深い知識を学び、職業選択の幅の広がりを感じた。 ・各学年で地域の施設見学や野鳥観察、合唱指導等多様な地域人材活用授業を実施した。地域人材の専門的知識や技術、ふるさとの歴史や自然を守る思いにふれてることで、児童も唐津のよさを感じ取ることができた。	A	・児童からの肯定的回答の割合が高いのは大変素晴らしい。地域学習では、学習支援ボランティア資源と学校からのニーズのマッチングをコーディネートする体制作りを検討してもいいと思う。地域の老人クラブや清掃活動などの情報を学校へ寄せて、地域と学校をつないでいくことが大切だと思う。	こころ部
	●健康・体づくり	次の申込から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着」 ②「望ましい生活習慣の形成」	①1日30分以上の運動やスポーツ、外遊びを行うことができる児童80%以上を目指す。 ②睡眠時間が8時間以上となる児童が80%以上を目指す。	A	・「縄跳び8の字跳び」や「ドッヂボールラリー」等運動に親しむ取り組みへの参加呼びかけや縄跳び記録会、マラソンタイムを実施した。その結果、「一日30分以上の運動や外遊びをしている」に肯定的回答の児童は中間評価より3%増加の81%であった。 ・18時間以上寝る時間を取ろうとしているに肯定的回答の児童は中間評価より3%増加の84%であった。就寝時刻や起床時刻、朝食の喫食状況等を記録する「生活リズムカード」の取組みを全児童実施した。低学年は起床から登校までに60分確保している児童が多いが、学年が上がるにつれ就寝時刻・起床時刻が遅い児童の割合が多かった。結果を「保健だより」で保健者配布した。教育講演会では、5・6年児童と保護者対象にスクールカウンセラーによる「習慣のチカラ」の講話を実施した。今後もよりよい生活リズム確立のための情報発信と保護者啓発を行っていく。	A	・児童が放課後に外遊びをする経験が減ってきており、学校でスポーツチャレンジなど児童が楽しんで目標を持って運動に親しむ活動に取り組んでいることは効果的である。児童の体力向上や運動能力向上のために今後も継続して取り組んでいただきたい。 ・早寝早起きなどの生活リズムを整えるのは小学校段階で重要なことだと思う。家庭との連携を継続していただきたい。	からだ部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在勤務時間削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在勤務時間の上限を遵守する。	・金曜日を定期的退勤日として設定し、メリハリのある業務を推進する。 ・業務記録票をもとに振り返る場を設定し、勤務の在り方の改善を行う。	B	・早日の行事提案、夏季休業中に2学期の行事計画・資料作成を行うことで見通しをもって準備を進めることができ、職員の金曜日定期退勤率を高めることができた。 ・各部会での仕事量分担や学年団の連携、管理職による積極的な年休取得の呼びかけなどにより2学期は全体的に時間外勤務時間が減少した。	B	・業務量が多い中、業務改善に向けて連携して工夫されている。高学年での教科担任制や級外職員の強みを活かして担任をサポートしている体制がよい。先生方が心身ともに健康で働ける環境づくりが大切だと思う。	教頭
	○校務の整理や行事の精進に取り組み、業務の効率化を推進する。	○各部の会議の流れを確認する。 ○各学年で作成したワークシートなどの共有化を行う。 ○業務の効率化が図られたと感じる職員80%以上。	・各部長のリーダーシップのもと、各部提案文書の共有化を引き続き推進する。 ・若手育成の観点から、学年通信を掲示したり、各学年で作成したワークシート等を校務用に保存したりして、教育的財産を共有する。	A	・各種行事は、昨年度までの行事反省、児童の実態を考慮した内容を保護者へ情報発信し理解を得ながら効果的な精進していくことができた。 ・校務用サーバーでの教材共有、改善したデータ保存を進めた。 ・職員連絡会・職員会議レジュメに提案内容と共に担当、時間を明記することで効率よく提案する意識をもつことができた。会議資料は校務用サーバー保存データを使っての提案が増え、ペーパーレス化を推進していくことができた。 ・「教材や各部提案文書の共有化を推進し、金曜日の定期退勤日を意識して業務の効率化を図っている」に肯定的回答をする教員は85%となり、中間評価も9%増加した。	A	・校務用サーバーでの教材共有やペーパーレス化の推進など業務効率化を目指して努力していると思う。 ・民生委員会で学校から「はなまるアプリ」登録方法を教えてもらっていた。学校からの情報が「はなまるアプリ」から届くのは便利であり、地域住民として学校の状況が分かってありがたい。集団下校等の見守りなど連携していただきたい。情報発信は大変な面もあるかもしれないが、「はなまるアプリ」発信は継続していただきたい。	教頭

(2)本年度重視的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組 内容	成果指標 (数量目標)	具体的な取組	最終評価 実施結果		評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
				達成度 (評価)	実施結果			
○教員の専門性の向上	○研修会やグループ授業を効果的に活用した、個別に応じた指導・支援の手立ての充実	○「特別支援教育に関する職員研修会」を実施する。 ○個別の支援に係るケース会議の開催、アドバイザーの活用、連携機関による効果的支援の共有を図る。	・特別支援教育に関する職員研修会を実施する。 ・個別の支援に係るケース会議の開催、アドバイザーの活用、連携機関による効果的支援の共有を図る。	A	・気になる子の実態把握や支援の在り方について定期的に情報交換し、全職員で共通理解を基に実践へつなげた。 ・特別支援学級の担任による研究授業を複数回実施し、特別な支援を要する児童への支援について研究協議を重ねた。 ・「個別の支援についての理解を深め、特別支援教育への専門性向上を図っている」に肯定的回答の教員は88%であった。	B	・教員相互の授業参観、研究会で授業作りや教室環境づくり等の情報交換をして専門性を高めている努力をされていることはありがたい。引き続き、児童への教育に力を發揮していただきたい。	特支CO

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	・最終評価では中間評価から向上した項目が4項目あった。中間評価を活かして具体的な取組のPDCAサイクルを回し、改善を重ねてきた成果と考える。来年度も適宜直しと修正をしながら教育活動の充実に努めていきたい。 ・項目①「学力向上」に関しては来年度も算数科の校内研修に取り組み、「スキルタイム」の継続による基礎基本の定着と記述力の練習をより細かに。 ・常の取組(児童の名前のさんづけ、乱暴な言葉遣いへのその都度の指導等)の学級通信でのPRやいじめと思われる事案等への対応報告をより細かにすることで継続していく必要がある。 ・各学年の授業や「働く人プロジェクト」、福祉体験、教育講演会、教育相談・特別支援教育等地域人材やSC及びSSW等専門人材を活用した教育活動を多く設定することで、児童の学びを深め、支援の改善を図ることができた。来年度も外部人材の力もお借りしながら、児童が意欲的に取り組むことができる教育活動の充実及び児童理解に努めていきたい。
5 総合評価、次年度への展望	・各学年の授業や「働く人プロジェクト」、福祉体験、教育講演会、教育相談・特別支援教育等地域人材やSC及びSSW等専門人材を活用した教育活動を多く設定することで、児童の学びを深め、支援の改善を図ることができた。来年度も外部人材の力もお借りしながら、児童が意欲的に取り組むことができる教育活動の充実及び児童理解に努めていきたい。